

10月3日（月）

在ミラノ日本国総領事との意見交換会

ミラノ市はイタリア北西部、ロンバルディア州の州都であり、イタリア最大の工業都市であるとともに、多くの歴史的建築物、博物館、美術館、大学などに囲まれた文化と伝統が息づくまちである。市の中心部にあるドゥオモ（大聖堂）はイタリアにおけるゴシック様式の代表的建築物である。

日本とイタリアの中で先進的な都市として大きな役割を果たしている本市とミラノ市には多くの共通点があり、文化や経済の交流が活発に行われていたことから関係強化の機運が高まり、1981年6月8日に正式に姉妹都市としての調印を行った。以後、幅広い分野において多様な交流を進め、友好親善の輪を広げてきた。



ドゥオモ（大聖堂）

大阪・ミラノ姉妹都市提携 40 周年記念事業としてミラノ市を訪問した代表団一行は、在ミラノ日本国総領事との意見交換会のため、バスで総領事館へと移動した。到着後、雨宮総領事に総領事館内を案内いただき、その後、意見交換を行った。冒頭、雨宮総領事より歓迎の御挨拶をいただき、続いて高橋副市長、大橋市会議長からそれぞれ挨拶を行った。

【高橋副市長 挨拶要旨】

本日は大阪城とスフォルツェスコ城の城郭提携、また、スフォルツェスコ城内ロッケッタ広場での大阪城写真展オープニングセレモニーを予定している。ミラノ総領事館の多大なる御尽力と資金協力のもと、今回の写真展を開催いただけることになり感謝している。

また、この間のミラノ市との調整のフォローや、ミラノでの新型コロナウイルス感染症に対する対応などの最新情報を提供いただくなど、御協力をいただき御礼申し上げます。本日は雨宮総領事には長時間お付き合いいただき、何卒よろしくお願いする。



雨宮総領事との意見交換

【大橋市会議長 挨拶要旨】

雨宮総領事をはじめ、総領事館の皆様には日頃から本市とミラノ市の姉妹都市交流に御理解、御協力を賜り感謝している。本日は、ミラノ総領事館の多大なる御支援のもと、大阪城とスフォルツェスコ城の城郭提携、大阪城写真展のオープニングセレモニーを実施できることを深く御礼申し上げます。

本日は何卒よろしくお願いする。

挨拶の後、直近の情勢等について説明を受けるとともに、本市より姉妹都市提携 40 周年記念事業について紹介し、今回の城郭提携記念写真展の開催をはじめ、日頃の交流促進への協力の謝意を伝え、意見交換を行った。

ミラノ市副市長表敬訪問

次に、ミラノ市役所マリーノ宮（議会庁舎）へと移動し、アンナ・スカブッツォ副市長を表敬訪問した。冒頭、スカブッツォ副市長より御挨拶をいただき、続いて高橋副市長、大橋市会議長からそれぞれ挨拶を行った。

【スカブッツォ副市長 挨拶要旨】

ミラノ市へようこそ。初めての方も2回目の方も、この場にお迎えすることができてうれしく思っている。今日のこの機会に芸術・文化・ファッション・万博などいろいろな意見交換ができればと思っている。



挨拶されるスカブッツォ副市長
（左から2番目）

【高橋副市長 挨拶要旨】

この度は、大阪市会代表团とともにミラノ市を訪れ、副市長にお会いすることができ大変うれしく思う。

両市は1981年の提携以来、幅広い分野において交流してきた。昨年は新型コロナウイルス感染症の影響によりミラノ市を訪問することができなかったが、さまざまな記念事業がオンラインで行われ、特にミラノ市の御協力のもと、大阪城とスフォルツェスコ城の両館長による対談を実現することが可能となり、その様子を収めた記念動画も作成することができた。また、今回の訪問にあわせて、両城郭のさらなる友好関係を示すため、友好城郭提携を締結できることは大変名誉に感じている。

ミラノ滞在中には、大阪の魅力について紹介するセミナーやネットワークレセプションの開催をはじめ、大阪・関西万博の参考とするためミラノ万博跡地等を視察し、ミラノ市の先進事例を学びたいと考えている。

本市では、2025年には大阪・関西万博が開催される予定であり「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪に世界の英知を結集し、医療・健康をはじめとした最先端技術の展示など、コロナ後の未来像を描く予定である。ぜひ副市長にも御参加いただきたい。あわせてミラノから多くの企業にも御参加いただけたらと思っている。

【スカブッツォ副市長より】

ここ数年のコロナの状況もあり、特にまちとまちとの協力や絆が重要であることをあらためて実感している。現在のようなコロナ禍の難しい時代や、また将来に向けても、このような交流の機会は重要であり、今後もますます交流を深めていきたいと考

えている。

ミラノ市で市政を進めるにあたり重要視していることは、私たちの住む地球、そして未来をいかに守っていくかということである。2025年には大阪で万博が開催されるが、ミラノで経験した万博と同じように、大阪での万博がこれからの将来を考え直すきっかけになり、未来を良くする足掛かりになることを願っている。ミラノ万博での日本のパビリオンはすばらしく、万博の象徴的なパビリオンとなっていた。そんな日本は企画力や想像力にたけているため、万博を開催するにあたって私たちからお伝えすることもあまりないと思っているが、それでも万博は大きなイベントであり世界中から人が訪れるため、この交流でいろいろな意見交換を行い、そしてミラノ市からアドバイスができればと思っている。

世界中が難しい状況である中、日本では東京オリンピックが開催されたが、ミラノでも冬季オリンピックが開催される予定である。万博とオリンピックという大きなイベントが控える両市として、これからも交流をお願いしたい。

ミラノ市と大阪市は全く違う文化を持つ二都市であるが、共通するところも複数あり、交流を通じて2つの都市の伝統と文化のハーモニーを築き上げていければと考えている。

本日は文化やアート、芸術面などの担当も来ており、そのような分野での意見交換も活発に行いたいと思う。また、世界の食物供給システムがミラノ万博を機に注目されており、来週リオデジャネイロで国際会議が行われるので、そちらにもぜひ御参加いただきたい。

【大橋市会議長 挨拶要旨】

本日は、スカブッツォ副市長をはじめ、皆様方とお会いできることを大変楽しみにしていた。また、本市とミラノ市の姉妹都市提携40周年を記念して、ミラノ市を訪問できたことは大変光栄である。

ミラノ市には昨日到着したが、ここマリーノ宮殿をはじめ、スフォルツェスコ城などの歴史的な建物が多く、大変すばらしい都市景観であると感じている。今回の滞在でミラノ市の先進的な取組について伺い、今後の本市の施策の参考にさせていただきたいと考えている。

本市とミラノ市との40年間にわたる貴重な交流の歴史と成果を誇りに思うとともに、さらなる発展に努めていかなければならないと考えている。

新たな時代に向けて、両都市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念している。また、私からもスカブッツォ副市長の万博への



大橋議長 挨拶

御参加をお願い申し上げます。

【スカブッツォ副市長より】

ミラノにようこそ。この後の市議会との交流も楽しんでいただければと思う。挨拶でミラノの景観をほめていただきありがたく思う。現在ミラノ市では、コロナ禍の今であるからこそ、人と人との距離をもっと大切にしようというプロジェクトを進めている。ありがたいことに、ミラノ市の人口は増えてきており、今後は、新世代となる子どもたちを安心して育てることができる環境を、都市全体でつくっていく施策を進めていく。

【意見交換概要】

（高橋副市長）

国家プロジェクトである大阪・関西万博は、133 か国と 8 つの国際機関が参加することになっており、2 年半後に開催予定である。コロナ禍で滞っていた姉妹都市交流であったが、万博を契機に再び強化していきたい。ミラノ市の皆様も 2 年半後にぜひ大阪・関西万博に来ていただき、その際にまた意見交換ができればと考えている。



スカブッツォ副市長との意見交換

（スカブッツォ副市長）

万博開催までの今後 2 年半はとても重要な時期になると思う。万博はそのまちを語る重要なイベントとなるので、開催都市のオリジナリティが出る場所であり、2025 年の万博は大阪でしかできないものになると思う。万博はただ単にモノを展示するだけでなく、その都市の文化などを伝えていく場所である。

姉妹都市交流については、今後コロナ前のような活発な形で交流をしていきたいと考えている。

（杉田議員）

子どもへの施策などを進めていくということであったが、本市も同じような施策を進めているところである。本市では小中学生の食育という観点で給食の無償化を行っているが、ミラノ市では子どもへの食育に対してどのような施策を行っているのか。また食品ロス問題についてはどう考えているか。最後に、ミラノ市では副市長をはじめ女性が多く登用されている一方、本市では女性の管理職の数がまだ少ない状況であ

る。私自身も女性の力は重要であると考えており、ミラノ市での女性の登用についてどのように進めているのかを伺いたい。

(スカブッツォ副市長)

食に関しての御質問をいただきうれしく思う。ミラノ市では、食と健康を密につなげており、2026年のミラノ冬季オリンピックでは「スポーツと健康」もテーマにしており、食に関しての発信を行っていくことを考えている。

御質問いただいた食品ロスについては重要なテーマととらえており、ミラノ市では無駄をなくすということに努めている。その詳細については10月15日に開催するリオデジャネイロでの食に関する世界大会を御覧いただくと内容がわかると思う。食品ロスというテーマは終わらないテーマであり、永遠の課題であるため、今後もしっかり取り組んでいく。

女性の登用について、男性の皆様にお伝えしたいのは、女性は男性の居場所を奪う存在ではなく、仲間であるということである。ミラノ市では市長や最高裁判官も女性が務めており、女性が先頭に立つことに抵抗がない。

(田中議員)

ミラノ万博での事業費について、当初の想定より増額になったのか。またミラノ万博の跡地にはどういった計画があるのか。

(スカブッツォ副市長)

ミラノ万博でも事業費の高騰は起こったが、初期予算からの増額は起こりえる問題であった。事故がないこと、すべてがうまくいくということであれば、事業費を上乗せすることは良しとした。その結果、万博をきっかけにたくさんの方がミラノを訪問された。万博開催の一番重要な目的は、展示会を行うことではなく、人と人とのつながりを実現することであり、ミラノ万博ではその目的を十分達成した。跡地には現在、研究所などを誘致しているところである。



スカブッツォ副市長との
記念品交換

続いて記念品の交換を行い、表敬訪問を終了した。

スカブッツォ副市長との意見交換を通じて、両市の姉妹都市の絆を再確認した。今後、大阪・関西万博の開催に向けて、一層交流を深めることができた。

ミラノ市議会議長表敬訪問

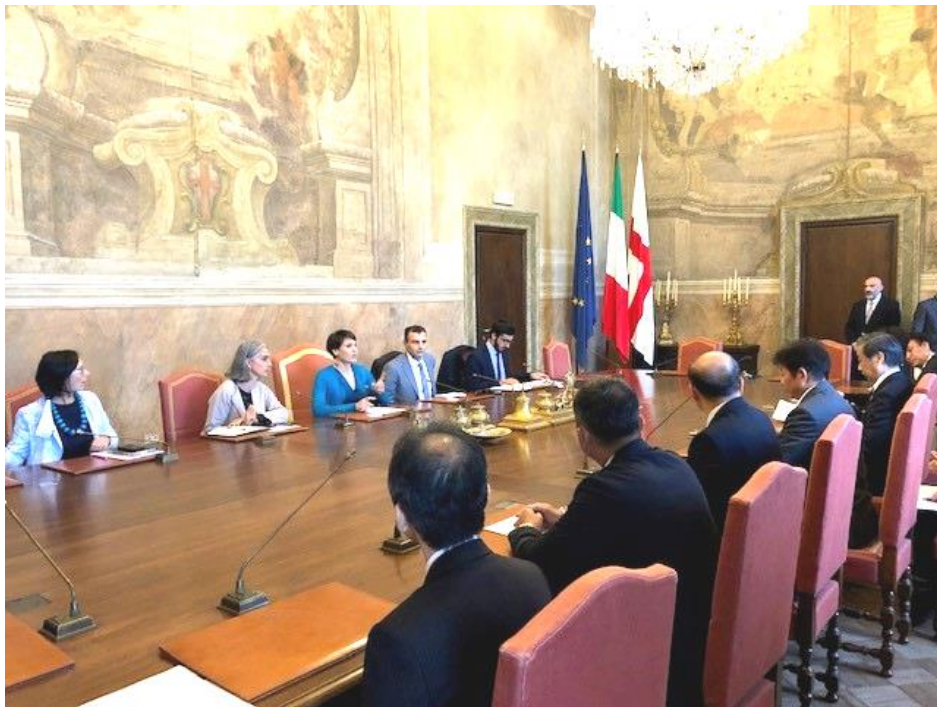
次に、ミラノ市議会のエレナ・ブッシェーミ議長及び議員の皆様を表敬訪問した。冒頭、ブッシェーミ議長より挨拶いただき、続いて大橋市会議長から挨拶を行った。

【ブッシェーミ議長 挨拶要旨】

ようこそ。今回姉妹都市提携 40 周年ということで、このような場を設けることができ本当にうれしく思う。2025 年の大阪・関西万博のテーマを拝見し、その内容がすばらしかったので、大阪での万博は大成功すると思っている。前回の開催都市であるミラノ万博での私たちの経験をお伝えすることで、微力ながら準備をお手伝いすることができると考えている。

また、今回の交流の一環としてマランゴーニ学院や、ポルタ・ノーヴァ地区の視察も行われるとのことであり、ミラノのまちをお楽しみいただければと思う。

このような交流の機会は、両市の経験を体験談として意見交換できるところがとても良いと思うので、アクティブな意見交換が行えたらと思っている。これから、ミラノのまちで充実した時間が過ごせるよう、またミラノの美しさ、文化を肌で感じていただけるよう願っている。



ミラノ市議会との意見交換

【大橋市会議長 挨拶要旨】

このたび、大阪とミラノの姉妹都市提携 40 周年を記念して、貴市議会を訪問できたことは大変光栄である。また、こうしてブッシェーミ議長はじめ、議員の皆様方と交流を深める機会を得られたことを大変嬉しく思う。時間の許す限り意見交換を行い、交流を深め、多くのものを吸収して帰りたい。

御存知のとおり、本市とミラノ市は、1981 年に姉妹都市提携を締結して以来、経済、文化、学術など、あらゆる分野での交流を深めており、昨年、めでたく 40 周年という記念すべき年を迎えた。40 年間にわたる貴重な交流の歴史と、成果を誇りに思うとともに、さらなる発展に努めていきたいと考えている。新たな時代に向けて、両市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

また、2025 年には大阪・関西万博が開催されるが、ミラノ市民の皆様、また議員の皆様のお力添えをいただき万博を誘致することができた。この場を借りて感謝申し上げる。大阪・関西万博には、ミラノの皆様にもお越しいただき、活力あふれるその姿を目の当たりにしていただきたいと思っている。

【ルーカ・コスタマーニャ 文化委員会委員長】

私たちの役目は、市の財産を管理し、2015 年のミラノ万博の結果や成果を分析・研究することである。ミラノ万博での投資額は、用地に 12 億ユーロ、そしてパビリオンにほぼ同額を投資し、交通機関や宿泊施設に 9～10 億ユーロを投資した。これはミラノ市だけではなく、州や国レベルの大きな投資額となっている。その結果、入場者合計は約 2000 万人で過去最多となった。

ミラノ万博の特に大きな成果の一つには、交通機関・ホテルなどのインフラ整備ができたことであり、小さなミラノのまちでも世界中の人を受け入れることができることを証明できた。そしてもう一つの成果は、万博のテーマであった食に関する問題提起を、ミラノ市が先陣を切って発信し続けていることである。

また現在、万博跡地には病院や研究施設を誘致している。私たちが誇りに思っているのは万博が成功に終わったことに満足せず、開催後も引き続き万博のテーマを継承していることである。



ミラノ市議会 表敬訪問

【トンマーソ・サッキ 文化担当評議員】

現ミラノ市長は、ミラノのために動くのではなく、世界のためにミラノを動かそうというモットーを持っており、あらためてミラノ市を文化に重きを置くまちにしようとしている。

コロナ禍にあって、ミラノ市は財政的にかなり厳しい状況ではあるが、予算を削らず、文化を守っていくことに先行投資を行っており、その甲斐あってか、ミラノ市を訪れる観光客はすでにコロナ前の人数を超えている。

特にスフォルツェスコ城については、コロナ前以上に充実した観光地になっている。このような観光スポットはミラノ市民だけに向けて充実させるのではなく、また観光客だけのものにするのではなく、誰にでも訪れてもらえるような取組を行っている。

また市長が、世界のためにミラノを動かしたいということで、現在、デザインやファッションの分野に力を入れている。コロナ禍を経験し、デザインを通じて人と人との距離が縮まるということがわかったので、今後は特にその分野の施策に力を入れていきたいと考えている。

【ホンダ議員】

万博予算についての詳細を教えてください。また、観光について、観光客数はコロナ前に戻ったということであったが、どのような取組を行ったのか具体的に教えてほしい。

【回答】

万博予算については公費などを含めて合計約 12 億ユーロである。跡地に関しては国と協議し、どのように活性化していくかを検討し、投資した以上のものが返ってくると見込んでいる。目的に向かい力尽きるまで突き進んでいくことが万博の成功のカギであると思っている。

2015 年にミラノ万博が終わった際、商工会議所などの協賛を得て、外国に向けてミラノが安心できる場所であるということや、観光情報などを発信するエージェントを立ち上げるなどの取組を行っている。



議長との記念品交換

その後、記念品の交換を行い、議長表敬訪問を終了した。

大阪城・スフォルツェスコ城 城郭提携行事

次に、スフォルツェスコ城へと移動し、城内のバラの間にて大阪城・スフォルツェスコ城の城郭提携行事に参加した。雨宮総領事、トンマーソ・サッキ ミラノ市文化担当評議員より御挨拶をいただき、続いて高橋副市長、大橋市会議長からそれぞれ挨拶を行った。

【雨宮総領事 挨拶要旨】

このたびは姉妹都市提携40周年おめでとうございます。本日このような素晴らしい会場で皆様と祝賀行事を行うことができ大変うれしく思う。大阪城写真展を開催するにあたり、スフォルツェスコ城の皆様大変御尽力いただいた。日本とイタリアの間には40以上の姉妹都市が存在するが、大阪市とミラノ市は中でも、文化や商業などで強いつながりがある。両市が2025年に大阪・関西万博、2026年にミラノ冬季オリンピックと国際的な大型イベントを迎える中、新型コロナウイルスとの共存をはかりつつ、様々な分野で姉妹都市としての結びつきを強めていることに敬意を表する。今回の写真展では大阪城の四季折々の情景をミラノ市の方々に見てもらうことができる。コロナ前の2019年は16万人のミラノの方が日本を訪れていた。今回の写真展をきっかけに訪日人口が増えることを期待している。

【トンマーソ・サッキ ミラノ市文化担当評議員 挨拶要旨】

ようこそ。本日はミラノと大阪市の姉妹都市提携40周年を祝うためにここにいることを大変うれしく思う。

文化と芸術というものは、世界を知ることができ、またお互いを意識し、財産や才能を



スフォルツェスコ城の外観



スフォルツェスコ城内にて

(左から3番目 トンマーソ・サッキ評議員)

分かち合い、またそれを楽しむという、人と人との間に架け橋をかける、無くてはならないツールであると私は考えている。ミラノ市と大阪市、またイタリアと日本を結ぶ架け橋をさらに強化するために、私たちはここに集まっている。この2つの城のつながりは16世紀の末に日本からの少年使節団がイタリアに到着したころから始まっている。そして本日10月3日から10月17日まで大阪城写真展をこのスフォルツェスコ城で開催することとなった。ここミラノで、四季折々の大阪城の姿をお楽しみいただくことができる。開催にあたって御尽力いただいた日本領事館には心から感謝申し上げます。本日の基本合意書への署名が姉妹都市提携の絆をさらに強固なものにすることを祈っている。

【高橋副市長 挨拶要旨】

このたびは大阪市会代表团とともにミラノ市を訪れ、歴史あるスフォルツェスコ城において大阪城写真展、また友好城郭・提携締結に参加できることを嬉しく思う。写真展の開催にあたり、これまで多大な御尽力をいただいた雨宮総領事をはじめ、総領事館の皆様、ミラノ市やスフォルツェスコ城関係者の皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響により訪問することができなかったが、さまざまな記念事業がオンラインで行われ、特にミラノ市の御協力のもと、大阪城とスフォルツェスコ城の館長同士による対談が実現した。今回の訪問にあわせ、両城郭のさらなる友好関係を示すため、友好城郭提携を締結できたことは大変名誉に感じる。

大阪城天守閣は1931年、市民の募金により復興され、昨年復興90周年を迎えた。これまで幾多の苦難を乗り越えてきた大阪城天守閣は、大阪市民に愛され、大阪のシンボルとなっている。同じようにミラノ市民に愛され、ミラノのシンボルであるスフォルツェスコ城において、美しい大阪城の姿が見られることは、本市とミラノ市の姉妹都市交流があつてこそのものであり、今後とも両市の交流を発展させるため尽力していく所存である。

期間中にはミラノの人々にもぜひ大阪城の魅力を知っていただき、一人でも多くの方が大阪に訪れていただけることを願っている。

【大橋市会議長 挨拶要旨】

スフォルツェスコ城と大阪城との城郭提携の署名式、また、大阪城写真展のオープ



高橋副市長、大橋議長 挨拶

ニングセレモニーに参加させていただき大変光栄である。私からも城郭提携署名式、及び写真展の開催にあたり、多大な御尽力、御支援をいただいた関係者の皆様に厚く御礼申しあげる。

このたび、新たに大阪城とスフォルツェスコ城の友好城郭提携が締結できることは誠に喜ばしく、誇りに思っている。これを契機とし、文化・歴史など様々な分野にわたりいっそう交流が深まることを期待している。

また皆様には、大阪のシンボルの一つである大阪城の美しい写真を御覧いただき、大阪の魅力を少しでも身近に感じ、ぜひ大阪に足を運んでいただければと思う。

＜城郭提携の主な内容＞

大阪城天守閣・スフォルツェスコ城は、これまでの協力の実績を認識し、文化施設である両城、両自治体、そして両市民の利益に資するため両城間の友好協力関係を強化するという意思を再確認したうえで、両城ならびに大阪市・ミラノ市、または日本国・イタリア共和国の歴史や文化をより多くの人々に紹介するために協力・交流を続けていくことをここに宣言する。



城郭提携 署名式の様子

大阪城・スフォルツェスコ城は両市を代表する歴史・文化遺産であり、両城ともに内部に博物館を有することや、国内外からの観光集客拠点でありながら市民の憩いの場であることなど、共通項を多く持つ。両城郭の提携により、さらなる姉妹都市交流を促進し、両市・両城郭の魅力発信につなげる礎を築くことができた。



大阪城写真展オープニングセレモニー

両城郭の署名式が行われたのちに、城内のロッケッタ広場に移動し、大阪城写真展のオープニングセレモニーが行われた。セレモニーの始めに太鼓のパフォーマンスや日本酒講義が行われた。その後、雨宮総領事、サッキ評議員、スフォルツェスコ城のサルシ館長とモリ管理責任者、高橋副市長、大橋議長、宮本大阪城天守閣館長による鏡開きが行われ、宮本館長が乾杯の挨拶を行った。



鏡開き



宮本館長の乾杯挨拶



日本酒の紹介



太鼓パフォーマンス

在ミラノ日本国総領事の御厚意及びミラノ市の開催場所無償提供により、両城郭提携に合わせて、スフォルツェスコ城のロッケッタ広場にて、大阪城の写真 42 枚を展示する大阪城写真展「大阪城の四季」が 10 月 3 日から 14 日まで行われた。両市・両城の絆と大阪城の魅力を、広くミラノ市民をはじめ御覧になられた方々に発信することができた。

右：ロッケッタ広場での大阪城写真展

